

# かずさの博物誌

## キアシシギ

～澄んだ美しい鳴き声～

文・写真／成田篤彦

2012.6.20

「ああいいな」と思った。晴れの日の上総の海岸は清々しい。

潮が海岸線いっぱいまで押し寄せ

て、小さな波がアオサやオゴノリの海藻を岸辺に押し上げたり、引きもどしたりしていた。

沖へ向かつて打ち込まれている杭の先に一羽ずつキアシシギが止まっていた。約一五〇羽いた。こんなにたくさんのかわいらしい姿を見たのは最近ではあまりない。

ムクドリよりやや大きく、背は灰色から黒色、胸から脇腹に曲がりくねった黒い筋があり

た。



▲キアシシギ チドリ目 シギ科 春と秋に訪れる 千葉県指定要保護生物

=2012年3月13日 木更津市 筆者撮影

中には眼をつぶつているものもいた。満潮でえさがとれないので、休息をしているのだ。一時間ほど待つと海岸沿いや沖合に洲が現れた。

くちばしが黄色で、先の方は黒色だ。脚の色は鮮やかな黄色。これが、キアシシギ（黄脚鶲）の名の由来である。

中には眼をつぶつているものもいた。満潮でえさがとれないので、休息をしているのだ。

一時間ほど待つと海岸沿いや沖合に洲が現れた。



▲飛ぶキアシシギ  
=2011年9月10日 木更津市 筆者撮影

の海岸では一九九七年八月、八〇八羽、市川市新浜では一九六七年八月に一三八四羽の記録がある。また、千葉県で足輪を付けたキアシシギがオーストラリアで確認されている。

また、オースト

ラリアと台湾で放鳥されたものが、千葉県で回収されている。渡りの距離は最大約四千キロにもなるそうだ。小さな体でこれほど長距離の渡りをするとはとても思えない。

キアシシギは色彩などにとりたてて特徴がないが、背中の黒灰色などは海を渡る時や海岸の岩礁に止まつた時には天敵から見にくいでであろう。また、大きくしかとしたつばさ、風の抵抗をさける流線型の体つき、統一されて群れで飛ぶ姿など飛行に適応しきつた様子が見事である。

それに、互いに鳴き交わす、「ピュー」という澄んだ透明感のある美しい声がきわめて魅力的である。キアシシギは上総に数多く訪れるシギ類の代表格の一種であることは間違いない。

（主な参考文献）

千葉県2011年千葉県の保護上重要な

野生生物

動物編

©成田篤彦



▲砂浜でえさをさがすキアシシギ

=2012年3月13日 木更津市 筆者撮影

トラポットや河川の堰、水田などいろいろな場所で、冬季以外に観察できる。

えさはコメツキガニ、チゴガニ、アナジヤコ、ゴカイなどである。過去の記録を見ると上総の盤洲

ら東南アジアである。

外のシギは普通、春と秋の二回日本を通過する渡り鳥だが、キアシシギは冬を除いて、春から秋の遅くまで、とどめなくさまざまなか環境に訪れる。

上総でも盤洲の海岸や河口のテトラポットや河川の堰、水田などいろいろな場所で、冬季以外に観察できる。



▲群れで飛ぶキアシシギ

=2012年5月16日 木更津市 筆者撮影